

次世代の地域農業を担う担い手の確保・育成

県央農林事務所笠間地域農業改良普及センター

笠間市や城里町、就農支援アドバイザー等と連携し、就農に向けた個別相談会による新規就農者の掘り起こしとともに、次世代の担い手の確保・育成に向けた栽培技術や農産加工等の基礎知識等を習得するための講座の開催に取り組みました。

また、令和3年度は、県内では初めてとなる「新規就農者激励会」を笠間地域就農支援協議会と連携して開催し、地域の担い手として早期に定着できるよう先輩農業者等との交流の場づくりを行いました。

新規就農者の確保・育成

トマト等の園芸品目のほか、水稻、粟、有機栽培など幅広い相談に対応するため、市町やJA、農業者10名からなる就農アドバイザーと連携して個別相談会を行うとともに、広域就農相談会に3回出展した結果、令和3年度は23名の新規就農者を確保しました。

また、栽培技術等の講座を年間14回開催したほか、農地や農業機械の取得、各種支援制度の活用等に対する助言を随時行い、新規就農者の育成に努めました。



写真1 WEBによる広域就農相談会



写真2 「道の駅かさま」における農産物販売の様子

次世代を担う青年農業者等の育成

中央アグリクラブは、笠間市と城里町の若手農業者14名が加入し、栽培技術の向上や経営改善に意欲的に取り組んでいます。令和3年度は、生産した農作物に対する消費者の評価を把握し品質改善につなげるため、店頭（道の駅かさま）での販売活動に取り組みました。

こうしたクラブ活動を通じて、地域のリーダーが育成され、同クラブから新たに青年農業士1名が認定されました。

新規就農者激励会の開催

農業三士のほか、市町、JA等の関係者が見守る中、新規就農者18名に笠間地域就農支援協議会長より地域の担い手として期待が込められた激励状が手渡されました。

地域の担い手としての意識付けにつながるとともに、新規就農者の定着には関係機関が一体となった地域ぐるみのサポート体制が重要であることを再認識する機会となりました。



写真3 新就農者激励会の様子